

PROGRAM NOTE

2000

近藤 譲：ダーティントン・エアー

オーボエと打楽器（1人又は2人）のための

Dartington Air

for Oboe, Percussion (optional 2nd percussionist)

この作品は、長い間ロンドン・シンフォニエッタのオーボエ奏者を務めていたメリンダ・マックスウェルのために書かれ、2000年の「ダーティントン音楽祭」（イギリス）での彼女のリサイタルで初演された。オーボエが奏する半音階的だが歌唱的性質の線を中心に、それをマリンバとカウベルの響きが支えるという、単純な形の音楽である。打楽器を1人でもよいが、2人で演奏することが望ましい。その場合、2人の打楽器奏者は、同じひとつのパートをユニゾンで重複して演奏する。それは、単に打楽器の音量を増すためではなく、むしろ、複数の奏者が同じ音楽をユニゾンで重ねて演奏することで、その音楽自体の性質が異なったものになる（私はいつもそう信じて、「ユニゾンの合奏」を好んで用いる）からである。

近藤 譲

初演：2000年8月（イギリス ダーティントン「ダーティントン音楽祭」）

初演者：メリンダ・マックスウェル（オーボエ）

リチャード・ベンジャフィールド（パーカッション）

委嘱：メリンダ・マックスウェル

出版：University of York Music Press (UK)

録音：ALCD-93

演奏時間：9分